

芦屋のゴミ パイプライン 廃止する方向に

芦屋市は、芦屋浜及び南芦屋浜の一部の埋立地区で運用していたゴミ運搬用パイプラインを廃止する方針を固めた。12月の議会承認を経て、施設の運用期間に定めを設け、ゴミ収集車での回収など他の方式に順次切り替える。年間2億円前後の維持費や、老朽化した施設の改修費にコストがかかるため、今後45年間で約341億円から約85億円に経費を圧縮する見込みだ。

パイプラインシステムは、地下に張り巡らされた直径50cmの輸送管により、燃やすゴミを投入口から空気で処理センターまで運ぶ仕組み。街の景観を損なわず、

芦屋市内にあるパイプラインの投入口の1つ。



市民の都合の良いときにゴミが出せる「未来都市の象徴」として、70年代から全国の埋め立て地やニュータウンに導入された。しかし、国の方針や住民の意識が変わり、ゴミの分別や減量化が進んだことで、稼働率が低下。また、資源ゴミなどは別途回収する必要があるため、効率の悪い運用になっていた。市の担当者は、「他都市でも廃止が進み、メーカー側も装置の技術開発が進まないという状況もあります。今後は、安全で低コストな運用に向け、理解を得ながら進めたい」と話した。

24年ぶりに 西宮で花火大会

西宮浜の新西宮ヨットハーバーで11月11日、24年ぶりに「西宮花火大会」が開催され、30分にわたって約千本の花火が打ち上げられた。阪神大震災後、自粛や西宮浜の住宅開発により打ち上げスペースが確保できないなどの理由で途絶えていたが、西宮青年会議所(=西宮JC)が中心となって復活させた。

昨年の4月頃、西宮JCが野外イベントのファイナレに花火を検討していたところ、住民から花火大会の再開を期待する声寄せられた。吉井竜二実行委員長は、「震災は忘れてはいけませんが、今の魅力ある西宮を多くの人に知ってほしくて、どうしても復活させたかった」と話す。海

台風のため9月から延期したものの、当初の想定を上回る約1万人の観客が集まった。



上から打ち上げるため、打ち上げに使う台船のほか警備船も必要で、陸上よりもコストがかかる。花火代や警備体制の経費なども含めた費用は、市内を中心とした企業を地道に訪問し協賛を募った。足りない分は、クラウドファンディングで募集し、目標を超える約270万円が集まった。

吉井さんは「また開催を望む声が多くあれば、もっと打ち上げ本数を増やして、今後も続けていきたい」と次年度の開催に意欲をにじませた。

神戸市消防局がG-SHOCKとコラボ 記念モデル発売

神戸市消防局は12月7日、救助隊発足50周年を記念して、カシオ計算機株式会社(東京都)とタイアップした「神戸市消防局救助隊発足50周年記念モデル G-SHOCK」を発売した。火災現場での人命救助に加え、水難救助や山岳救助にも出動する救助隊員と、

衝撃に強いG-SHOCK双方の「タフ」なイメージから、2015年にタイアップ企画がスタート。50周年を機に、救助隊員の「これからもずっと街を守り続けていく」という決意を伝えたいと、2度目のコラボが実現した。時計のデザインは神戸市消防局の防火服をモチーフとし、オレンジ色をベースに、アクセントにネイビーを配置。バンド部



G-SHOCK「GW-B5600FB」モデル。全国のG-SHOCK STOREほか、家電量販店など取り扱い店舗にて販売。メーカー希望小売価格は28,000円(税別)。商品の問い合わせは03-5334-4869(カシオ計算機お客様相談室)まで。

分の裏面には反射材をイメージした鮮やかな蛍光イエローが映えるカラーリングとなっている。バックライト部には、もやい結びとカラビナを象徴したデザインを施し、裏蓋には神戸市消防局の消防章が刻印されている。消防局の担当者は、「コラボ企画を通して、一人でも多くの方に、昼夜問わず救助にあたる救助隊員の活動と想いを伝えたい」と話す。

国際会議の開催件数 神戸市が全国2位

日本政府観光局(JNTO)が発表した2017年「日本の国際会議開催件数」で、神戸市が東京23区に次いで全国2位となった。年間開催件数は405件で、同市として過去最高。医学・科学技術系の会議のほか、社会学関係の開催が伸びた。

神戸市には、国際会議を主催できる知名度のある大学教授が多く存在する一方、誘致や開催に向けての支援が不足しているため、立候補に二の足を踏んでいるケースが多かった。そこで同市は、企業研修や国際会議などのビジネスイベントをさす「MICE(マイス)」の誘致を強化するため、2016年より(一財)神戸観光局

神戸医療産業都市と関連した国際医学学会が多く開催された。



内にMICE誘致部を新設。誘致提案書やPRビデオの作成、会議参加者への観光案内やグッズ提供など、MICE誘致部のサポート体制を強化するとともに、各教授へ支援メニューを説明に回るなどした地道な取り組みが、今回の成果につながったという。MICE誘致部 黒田美香部長は、「MICEは、会議開催のほか宿泊や飲食、観光などの消費活動のすそ野が広く、周辺地域への経済効果が期待できます。また、国際都市としてのブランド向上にもつながるので、今後も積極的に誘致に取り組みたい」と話す。

神戸市と楽天が 包括連携協定を締結

神戸市は、市民サービスの向上と地域の活性化推進のため、12月1日に楽天株式会社(東京都)と包括連携協定を結んだ。市のプロモーション施策やインバウンド推進など6項目にわたり、他に例をみない幅広い分野での連携となる。楽天がECやAI技術を持った人材育成を支援するほか、キャッシュレス

決済の普及、区役所業務へのAI活用など、街のICT化を推進する。これまで楽天は同市に支社をおき、ECビジネスの創出に貢献。またヴィッセル神戸の選手による学校訪問など、市と関係を深めていた。市の担当者は、「楽天の協力で、若い世代に活躍の場が広がれば」と期待を寄せる。

締結式で、神戸市元 喜造市長(左)と楽天三木谷 浩史会長兼社長(右)。



三宮「パイ山」の新デザインを募集

一 宮駅前の待ち合わせ場所として親しまれてきた「さんきたアモーレ広場」の新デザイン案を、神戸市が公募している。阪急神戸三宮駅北側に位置する同広場は、通称「パイ山」や「でこぼこ広場」と呼ばれ、現在は「神戸阪急ビル東館」の建て替えのため閉鎖中。2021年のビル開業に合わせて

従来の「さんきたアモーレ広場」。コンペに関する問い合わせは、「さんきたアモーレ」で検索を。



再整備される。市の担当者は、「市民の思い入れが深い広場なので、皆さんから広く意見やアイデアを募り、より多くの人に愛される場所にしたい」と話す。デザインコンペは誰でも応募可能(要事前登録)。最優秀賞には賞金50万円が進呈される。応募登録は2019年1月18日まで、提出は2月6日まで。3月下旬ごろ発表される。

防災意識を高めよう ～1月17日は「ひょうご安全の日」～

阪神・淡路大震災の経験と教訓を忘れることなく、安全で安心な社会づくりを進めていこう。



【地震発生時の避難行動】

- 慌てず身の安全を確保する
「姿勢を低く・頭を守る・動かない」の3つの安全行動をとろう。
- 津波警報の有無等の情報を収集する
テレビ・ラジオ・スマートフォンなどあらゆる手段を使って、正確な情報の把握に努めよう。
- 津波が迫る場合は一刻も早く高台等に避難する
津波は予想を超えて襲ってくることもあるので、状況に応じて、より安全な場所へ避難しよう。

【日ごろからの備え】

- 災害はいつ、どこで発生するか分からない。日ごろから、
- 避難場所・避難経路を確認しておく
 - 家族との連絡方法を決めておく
 - 非常用持ち出し袋を準備しておく
 - 家具の転倒防止措置をしておく
- など、「命を守る」「命を救う」ための備えをすることが大切だ。この機会に、家族と防災について話し合い、災害に備えよう。

協力:兵庫県警察